ジョシ

作・演出　広田淳一

【登場人物】

カオル　……バンドを解散した直後の一人暮らしの女子大生。
真夏原　……その古い友人。

前提

客入れ音楽が掛かっている劇場内。
円をモチーフにした舞台美術。
上奥には洗濯機、兼、乾燥機の丸い穴があいた物体。

1　夏の朝

夏の朝　　ランドリーへ

舞台スタッフによって化粧台が置かれる。
そして自転車のタイヤからゴム部分を取り除いた金属の輪が置かれる。
その輪にハンガーのようにして服を吊るす。
1人の女（カオル）が登場し、化粧台の前で入念に化粧を始める。
彼女は目立たないコートのような服を着ていて、やがてそれを脱ぎ捨てるであろうことが容易に想像できる。客席からは彼女の後姿と、鏡の中に映った像が見える。
やがて準備をすべて終えた舞台スタッフが化粧台を取り除く。
彼女は何事もなかったかのように化粧を続行する。
すると取り除かれた鏡の向こう側に彼女と同じ姿勢をした別の女が立っていて、やはりこちら側にむかって化粧をしている。
いつしか2人は鏡に手を伸ばしお互いの手を握りあう。

二人　　ジョシ！

カオル　　普通の朝だった。バイトの徹夜明けで帰る真夏の日本の朝まだき。これから起こるやっかいな出来事を予感することもなく、私はのほほんと自転車に乗っていた。いつもやかましい遊歩道もこの時間帯だけは、夏休みの学校の長い廊下！

静寂。

カオル　　音は吸い込まれ幾何学的な「長さ」だけがそこに横たわっている。遠くの方で聞こえる自動車の排気音を聞きながら、私は、流線型のサドルに跨ってアスファルトの廊下を滑るように蛇行した。
シャベル――――っ！　というのが私がこの自転車につけた名前。

女　　「シャベル」。

カオル　　穴掘れるわけでもなけりゃ、言葉を発するわけでもない一介のチャリンコに、どうして「シャベル」なんて名前をつけたのか？　それ今となっては知る由もありませんが、その時はただ、そういう気分だったんだよ――っ！

2人　　「よっ、ヨロロ」。　そうしてそれから、

カオル　水を打たれた豆腐屋の前、おばあちゃんが手を合わす八幡様の前をスラロームして通り過ぎ、ボブスレーよろしく自転車をば泳がせる。音を失ったその空間に、スポークの立てる回転音を注ぎ込むように、一心に、ペダルを、踏み込んだ！

カラカラとスポークが回る。
台詞途中からトラックの走行音がうっすらと聞える。
♪音響　遠くのほうでする急ブレーキの音。
照明変化。
カオル、イスに座りおもむろにアイスを食べ始める。
やがて、観客の視線に気づき、そちらに喋りかける。

夏の朝　ランドリーで

カオル　あ、これアイス……。あの、自分へのご褒美っていうか……。夜勤明けはアイス食べていいって決めてるんです。なんせ！　徹夜明けの私が元気なのはお腹が空いている間だけですから。何かを口に入れればたちどころに睡魔に襲われる。私には、作戦があった。「夜勤明けのアイスはコインランドリーで食べればいい」。今日この時を迎えるまで、木で出来たショッキング・ピンクの表札の掛かっているワンルームマンションの自室には、ゆうに一週間分を超える洗濯物が鎮座していて、その量といったら……。Tシャツやらキャミソールやら、ブラジャーやらジーンズやら靴下やらタオルやらパンツにニーソックス、プリーツスカートに、縦に3本のラインの入ったベージュのジャージーやら……とにかくこっぴどい有様で、実のところ、ここのところ私は、たいへん窮屈な思いをしていたのである。そこで私は、大量のくたびれたお洋服たちを引き連れて、マンションから少し離れたところにある24時間営業のコインランドリーに赴いた。今日、初めて。朝に寝て夕方起きる私が常々考えていたことはただひとーつ！　「起きたらまず洗濯をしよう！」　おやすみーっ！

カオル、急に寝そべる。
と、近くで目覚し時計の音が鳴る。

女　ポーポーポーポー
カオル　……あと5分。あと5分。

カオル、目覚し時計役の女の頭をたたく。
音が止まる。

カオル　ええ……もう時間じゃん……ま、洗濯は明日でいっか。
二人　よっ！　ヨロロ
カオル　とそんなこんなの挫折まみれの一週間。汗にまみれた洗濯物はそこに放置された。私は今ここで、何度でも忘れてしまう人生の教訓を今一度復唱しようと思う。

女　　寝る前と起きた後とではまるで違う人間になってしまうから、起きてからやろうと思うことは寝る前にやってしまいなさい！！
カオル　　え？　なに？
女　　だから、
カオル　　うん
女　　起きてからやろうと思うことは寝る前にやってしまいなさい！！
カオル　　と！　いうことを。……アイスをね、これ食べるから寝ちゃうんです。だけどね、アイスは絶対っしょ？　これ絶対。譲れねえでしょってことで、ホイ、
２人　　「夜勤明けのアイスはコインランドリーで食べればいい」！
カオル　　失敗を乗り越えるためにはいつだって発想の転換てやつが必要で、だって、一度敗れてしまった戦法にいつまでもこだわるやり方は頑迷な老将軍のやることであって、まだ二十代に足を踏み入れたばかりの私のやる、やり方ではない。なんせ私はまだ、一夜を共にした男の数が片手
女　　と少々
カオル　　で足りてしまう程の初々しさだから、そういう軽率さは果敢にウリにしていきましょうよって話であって、そしたら、へい、その５人を紹介いたしましょう。父・小次郎、兄、健太、祖父・正三郎、隣近所の田宮マヒロ君、そしてオカマのピノッチ。
女　　と、もう一人はシークレット。
カオル　　ほらごらん。ほら足りた。
女　　こと足りた？
カオル　　コスタリカ。
女　　小須田りか。
カオル　　アヤセハルカ
女　　アラカワシズカ？
カオル　　アラベスク――……。

ここまで言って、うつらうつらとうたた寝を始めるカオル。
と、「女」が真夏原として語りだす、

真夏原　　コインランドリーってのはコレ、潤いと乾燥とが隣り合わせになって横たわる、いわばおじいさんが芝を刈ってくる「山」とおばあさんが洗濯をした「川」が一つになっている場所なわけで、どこをどうつたってきてそうなったのかはわからない、ただ、気が付いたら私の状態はカイテンチュウ、だった。店開いてるほうじゃない。ぐるんぐるん、回る方――回転中。コインランドリーの奥から三番目にある、少し壊れかかった実はこの一台だけ購入年の古い茶色の、この乾燥機の中、で回転中だったわけでありまして、目が回るよ。ホトホト、く――っ！

夏の朝　　邂逅

２人、出会う。

真夏原にとっては久しぶりの再会
カオルにとってはなんだかよくわかならない人物との初対面。
乾燥機から真夏原がはじき出されるようにして飛び出してくる。
カオル、その真夏原をじっと見る。
真夏原、その視線に気付き目を合わせる。
カオル、目をそらす。いそいそとイヤフォンをつけて知らん振り。
真夏原、あからさまな無視にちょっと笑う。
近くに座る。
ちょっとの間黙っている。

真夏原　何よ。……何？

カオル、イヤフォンを取る。

カオル　え？
真夏原　何、今見てたでしょ。見てたよね、ニシン。
カオル　はい。見てました、けど、いや、なんかだって、今……。
真夏原　元気にしてた？
カオル　え？　あ、いや、うーんと、え、あそこから出てきまし……？
真夏原　あそこ？　どこ？
カオル　あの、今、乾燥機から出てきました？　よね。
真夏原　……口を慎みなさい。
カオル　は？
真夏原　好きでやってると思ってんのこんなこと。
カオル　だって、あ、はい、すいません。
真夏原　なにそれ？　何聞いてるの？

真夏原、自分にもイヤフォンを渡すように促す。

カオル　やめてください。なんなんですか。

カオル、真夏原を追い払う。

真夏原　……とりあえずニシン、さっきから、なんで丁寧語よ。
カオル　ん？　ニシン？
真夏原　どうしてそう水入らずの再会に水を差すかね……。ナーキーマースーヨ！　私泣いたら困るでしょ？

カオル　ええ。困ります……けど、なんか人違いとかしてません？　あたしニシンとかそういう名前じゃないんですけど。
真夏原　★ん、ん、ん、ん？
カオル　え？　あ、あの、あたしあの、高橋っていう……。
真夏原　★高橋カオルでしょ。
カオル　あれ？　え、はい。
真夏原　真夏原裕美です。どーぞよろしこ。

二人握手。

カオル　ってそうじゃなくてですね。
真夏原　高橋カオル。つまりニシンでしょ？
カオル　そんな風に呼ばれたことないですよ
真夏原　あるよ、呼んでたあたしが言ってんだから。
カオル　え、いつの話ですか
真夏原　うーん。え、もう十五年……ちかく前？　八歳とかだったから、うーわ、十五年前を語れてしまう自分が嫌。
カオル　わかりますー。
真夏原　ねえ。
カオル　え、でも呼ばれてないですよ。そんな……。
真夏原　だってあたししか呼んでないから。せっかくつけてあげたのにね。「ニシン」。すごいいい名前なのに皆呼ばないの。ね、ごはん食べた？
カオル　ん・はい？
真夏原　ごはん。お食事はおすみですか？
カオル　ああ、まあ。
真夏原　（驚いて）えっ、食べたの？
カオル　軽く。
真夏原　え、ほんとにいってんの？　何やってんの。あたし食べてないのにイ。それ何食ってんの？
カオル　え、アイスです。桃アイス。
真夏原　ちょっとそれ頂戴よ。

真夏原アイスを取って食べる。

カオル　ああ……、って、誰ですか？
真夏原　そのネタ引っ張りすぎ。全然おもしろくないから。これおいしいね？
カオル　え、ネタとかじゃなくてその……？
真夏原　うっそ。覚えてないのマジで？
カオル　……すみません。

真夏原　ほーん。ショックだなー。ま、しょうがないか、あたし死んじゃったしね。
カオル　は、え、死んじゃったんですか？
真夏原　そそ。語れば長くなるけども。そうねぇ……あえて一言で感想をまとめれるとすればァ――
―「無念じゃわい」。
カオル　聞いてないし。

短い間。

真夏原　うし。じゃ、行こうか。
カオル　え、どこに？
真夏原　ここ通っていろいろ昔のこと確かめに行こうよ。
カオル　いや、これはちょっと、てか、ちょちょ、ちょっと待って下さい、ここに隠れてたんですか？
真夏原　こんな狭いトコに？
カオル　いや、そう……無理ですよね
真夏原　だから敬語止めてって。気持ち悪いな。
カオル　ああ、ご、ごめん。
真夏原　ほら、早く行こう。
カオル　行こうって、ヤ、乾燥機はぁ……。
真夏原　何。何か悪い？　恐怖症？　乾燥機恐怖症？
カオル　じゃないですけど、普通、乾燥機とか入らないんじゃない？
真夏原　普通かどうかなんて関係ないでしょ。
カオル　でも、こんな朝っぱらからそんな……。
真夏原　時間なんて関係ない。
カオル　この中は……。
真夏原　場所なんて関係ない。あんたが行きたいから行く。それで十分でしょ？
カオル　や・ちょっとカッコいいね、あんた。
真夏原　ありがと。あんただって随分小奇麗になっちゃっ、あ、小奇麗ね、あんた。
カオル　あ、そう？　だけどゴメンゴメン、あたし全然行きたくないんだけど……。
真夏原　だったらさ、二人でお墓に行ったのは覚えてる？
カオル　お墓？
真夏原　そう。ほら、消化器でなんか、バーっとお墓を真っ白に塗り替えたりしてさ。やったじゃん。
カオル　……んー？
真夏原　ほら、お化けとか幽霊とかニシンはそういうのすっごい怖がってたから、そんなもんこの世にはいないんだって。お墓なんてただの石コロと同じなんだって、それ確かめるためにやったじゃない？

カオル、そんなバカな、という顔をしたる後、

カオル　……やったかも。
真夏原　そうだよね。
カオル　それは覚えてる。なんか消火器強烈だったし。
真夏原　量がね。あんなに出ると思わなかったよね。
カオル　だからあたし、この前のライヴでそういうのやったしね。パフォーマンスとして。

音楽がかかる。一瞬だけ、カオルのライヴの情景。

真夏原　おーライヴ？　バンドなんかやってんだ。なにやってんのニシン、ギター？　ベース？　それか昔みたくバイオリン？
カオル　え・なんで知ってるの？
真夏原　やってたじゃんあの頃から。やっぱそれだ？
カオル　いや、まあ……、ボーカル？
真夏原　すごいじゃん。バンドの顔じゃん！
カオル　いや、すごくないし。すごいとかありえないし。
真夏原　なんつーの、なんつーのそれ？　バンドの名前は？
カオル　サルカン。
真夏原　サルカン？　なにそれ？　どういう意味？
カオル　猿の輪っか。環状線の環で……、サルカン、みたいな。
真夏原　……はあ？　センス朽ち果ててんな。
カオル　うっさいな！　いいじゃん、もう辞めたんだから。
真夏原　あー、辞めたの？　いつ？
カオル　おととい。解散ライブだったから。
真夏原　おとといか……っておとといか！　へー、どんぐらいやってたのそのバンド？
カオル　3年ちょい。
真夏原　大事件じゃん！！
カオル　あんた、うるさい。
真夏原　ゴメンゴメン。
カオル　だから、まあ……今はいちおう、一段落っていうか。
真夏原　そっかぁ。
カオル　うん。

間。真夏原、2本の指の「人間」をカオルの足元から上に向けて這わせる。

カオル　行かないよ。絶対行かないよ。
真夏原　準備はよくってニシン？
カオル　よくってよ。
真夏原　お！

カオル　あれ？
真夏原　思い出して、ニシン？
カオル　あああああ、てめえええ！　ハラッパ！
真夏原　そう「ハラッパ」！
カオル　猛烈に嫌な感情とともに思い出した。ちっちゃい頃のあたしを散々にいじめちらした、隣近所のどうしようもないくそガキ。ハラッパ。

効果音:消火器が出る時の音。

カオル　そうだったそうだった。確かに、ダークグレイの墓石に消化器ぶっぱなして、真っ白けにした覚えがあった。墓石踏みつけにして白煙撒き散らした、その充実感。うしろめたい感じと怖い感じの入り混じった、こゆーい感覚を今も私は覚えている。
真夏原　魔法のようにそれは、あたしも、ニシンも、お墓も雑草もみんな真っ白けに姿を変えた。ハンドルを握り締めたあたしの手も真っ白けで、こんな風にして、あたしたちはいろんなものを、世界を変えていく事ができるんだ！

照明変化。
曲、大きくなる。

カオル　引き込まれるままに巻き込まれ、私は乾燥機の中へ、取り込まれていったのであった！

場面転換。

2　夏の午後

夏の午後　覚醒

夏、を現すＳＥ。高校野球の音。金属バットでボールを打つ音。歓声。
真夏原、着替え。

カオル　く――っ！
真夏原　すいません
カオル　ふぁ？
真夏原　何やっているんですか？
カオル　え……あれ？
真夏原　は？
カオル　あれ、ハラッパだよね？
真夏原　……何がですか？
カオル　いや、あなたが。
真夏原　あたしが、……ハラッパなんですか？
カオル　そう
真夏原　違います。
カオル　いや、……原っぱではないんだけどその、ニックネームでさ？
真夏原　はあ……。
カオル　あ、それあたしの（アイスを指して）
真夏原　いや、あたしのですよ。は？
カオル　あれ私、なんか……。
真夏原　はい？
カオル　寝てました？　つーか……叫びました？
真夏原　ええ。でっかく。
カオル　うーん。なんか難しいな。
真夏原　ああ、ていうか、あの、
カオル　はい？
真夏原　今、乾燥機から出てきました？
カオル　（呆れて）――ふー。

乾燥機のフタを開け。

カオル　なにしらばっくれてんの？
真夏原　ばっくれてはない、ですけど、え、すいません、あの、（といって、真夏原席を立つ）
カオル　帰らないでよ。人のアイス持って。

真夏原　私のです。
カオル　桃アイス。
真夏原　桃アイス。

見つめ合う間。

真夏原　あ、そんなに欲しかったら、どうぞ。
カオル　ってあたしのだから。
真夏原　じゃ、そういうことでいいですよ。――わあ、あなたのだ。
カオル　うぇー、釈然としなーい。あ、そうだ。消火器。消火器。
真夏原　え？　は？　大丈夫ですか？
カオル　いいからちょっと来てよ。ちょっと。
真夏原　や、ちょっと放してくださいよ。え？　いじめ？
カオル　いじめじゃなしにさ、ほら。

消火器を持ってくる。

真夏原　消火器ですね。

無言。

真夏原　なんですか？
カオル　本当にあたしのこと知らない？
真夏原　知りません。
カオル　ニシンニシン。
真夏原　……お魚さんですか。
カオル　魚じゃない人間よ。
真夏原　わかります。
カオル　高橋カオル。
真夏原　それは！　――私の名前です。
カオル　は？
真夏原　いや、私、高橋カオルですけど……って、え？　なんで知っているんですか？
カオル　んー？　真夏原裕美さん、じゃなくって？
真夏原　誰ですかそれ？　え、っていうか、あなた誰ですか？
カオル　だから高橋だっつーの。
真夏原　それはあたしですって。
カオル　あたしだって
真夏原　あたしです、

カオル　あたし／よーし！　そんなに言うんならネ、高橋カオルクーイズ！
真夏原　なんですかそれは。
カオル　全問正解だったら、認めてあげるわよ。
真夏原　……いいですよ。
カオル　ポーン。題１問。高橋カオルその人が一夜を共にした男は全部で？
真夏原　５人、と少々。
カオル　ぶー。まだ問題じゃありません。５人、と少々ですがぁ……、
真夏原　帰りたい。
カオル　その５人とは一体誰でしょーか？
真夏原　父・小次郎、兄・健太、祖父・正三郎、隣近所の田宮マヒロ君、そしてオカマのピノッチ。
　と、もう１人はシークレット！

　カオル、やるだけやる。

カオル　なんで知ってんのよ。
真夏原　自分のことですから。
カオル　聞きわけのない子ねー。
真夏原　どっちがですか。
カオル　んー。なんだろう。ちょっと前には、ちょうど今のあんたみたいな立場だったのよ。あたしが。
真夏原　はァ……。
カオル　あんたがいきなり乾燥機から出てきてさ、「くーーっ！」とかっつってさ。幼馴染だとかいってたじゃん。
真夏原　あなたの幼馴染なんですか？　あたしが？
カオル　そうそう。それでなんかあたしとしてもぼんやり思い出しかけてたのよ。ちっちゃいころに消火器で遊んだなー、っていうさ、一緒にね。
真夏原　遊んでませんよ。私は。
カオル　いや、遊んだのよ。
真夏原　そんな強引な……。

　一拍。

カオル　（消火器を見て）ちょっと出してみるか。
真夏原　え？
カオル　何かのきっかけになるかもしれないし。ね？
真夏原　それはちょっと……。
カオル　ダメ？
真夏原　ダメですよ。

カオル　★えい！
真夏原　だから！

ＳＥ　消化器を使う音。
その情景を二人は演じる。スローになる。
墓石を真っ白に染め上げている。

夏の午後　墓を染める

２人、着替え。

カオル　ゴホゴホ。
真夏原　あれ、大丈夫ニシン？
カオル　大丈夫じゃないよ。やめてって言ったじゃんよォー。
真夏原　仕方ないよ。消化器は途中で止まらないように出来ているんだから。
カオル　出すなってーの。そもそもォ。
真夏原　それはそうなんだけどさ。わー。真っ白け。
カオル　罰、かぶるよほんと。ばちかぶり姫だよ。
真夏原　どうでもいいじゃん、そんなん。
カオル　よくないよ。
真夏原　いや、よくないんだけど、どうでもいいことはどうでもいいと思いたい私でいたい私たちじゃん？
カオル　なんだそりゃ。でも自分のお墓真っ白けにされちゃったら嫌でしょう？　自分がされたら嫌なことはしちゃいけないんだよ。
真夏原　ふん。「（真似して）自分がされたら嫌な事は……」誰に教わった？
カオル　先生。
真夏原　あたしなら燃えるけどね。
カオル　燃える？
真夏原　燃える燃える。自分の墓真っ白けなんかにされたら嬉しくてもだえちゃうね。
カオル　変態。
真夏原　変態で上等。だから自分がやってもらって嬉しいことは他人にもしてあげないと。
カオル　いや、嬉しい人とそうでない人がいるから。
真夏原　そんなのわからないじゃん。喜ぶか嫌がるかわからないんだったら私が喜ぶと思ってやんなきゃでしょう？
カオル　ええ？
真夏原　じゃなきゃこもんないでしょう、誠意が。真心が。マガカラガ。
カオル　きっと嫌がるよ。
真夏原　きっと喜ぶよ。だってね、あたし、このお墓に入っている人の生まれ変わりだから。

カオル　え、そうなの？
真夏原　そう。のみならず、ニシンもね。
カオル　ん？　どゆこと、どゆこと？
真夏原　だから、
カオル　ハラッパがこの人の生まれ変わりなのに、
真夏原　ニシンがこの人の生まれ変わりでもあるのよ。
カオル　それおかしくない？
真夏原　全然。だって、生きている人はみんなあたしの生まれ変わりだから。
カオル　えー？
真夏原　（突然ぶりっこ口調になり）結局ぅ、みぃんな一人の人間の生まれ変わりなんだ。
カオル　そうなの？
真夏原　ぐるぐる巡ってんのよ。だってほら、命には限りがないけど、時間には限りがあるからさ。
　ぐるぐるしちゃうのさ。
カオル　じゃあさじゃあさ、
真夏原　なに
カオル　いつかあたしがハラッパになっちゃうわけ？
真夏原　そう。そんであたしがニシンになる。
２人　嫌だー。
真夏原　何よ。
カオル　あんたがいったんでしょう。
真夏原　でも、そういう仕掛けになってるんだって。お兄ちゃんが言ってた。
カオル　ハラッパのお兄ちゃんなんか信用できないよ。
真夏原　なんでだよー
カオル　なんかお尻とか好きだし。
真夏原　お尻が好きなのはしょうがないよ。男だから。
カオル　え？　――私も好きだよ。
真夏原　ええ？　ヤバいよ、それ。マジヤバいそれ、ちょっと。
カオル　え、え、じゃ、いつか男にもなっちゃうわけ、あたし？
真夏原　なるなる。ていうかもう、なりかかってる。
カオル　嫌だー。
真夏原　無類のお尻好き。
カオル　ヘンだー。
真夏原　だからあれだよ、全部いつかは自分のやる、役だからね。
カオル　じゃあさじゃあさ、
真夏原　何？
カオル　「昔、昔おじいさんとおばあさんがおりました」っていうのも全部やるの？
真夏原　モチロンね。
カオル　ええー。

真夏原　私の予想ではね、こう、桃を拾うおじいさんとおばあさんがいるじゃない？
カオル　うん。
真夏原　その川の上流に住んでいる、桃を拾わなかったおじいさんとおばあさんをやることになるね。
カオル　なにそれー、つまんなーい。
真夏原　バカ。ニシン、バカ、聞きなさい。
カオル　ハイ。
真夏原　世の中にはね、目立つ役と目立たない役があんのよ。
カオル　目立ちたーい。
真夏原　わがままいうなこの野郎。
カオル　だってさー
真夏原　バカ！　ニシン、バカ！　バカ！　バカ！　バカ！
カオル　言い過ぎだよ。
真夏原　欲しがりません勝つまでは！　いーや、勝っても。勝っても欲しがるな！
カオル　軍部独裁だ。
真夏原　（慣れ慣れしく）意外と目立たない奴がすげえおもしろかったりするんだって。
カオル　本当に？
真夏原　ちょっと想像してみてごらんよ……。

二人、想像する。

夏の午後　桃を拾い損ねる

カオル　あ！　あー、あ、あーっ！
真夏原　なになに？
カオル　桃、桃、桃だよ！　でけ！　かわいい桃だよ！
真夏原　いいから、ちゃんと洗濯しろよなー。まだふんどしすげえ残ってるんだからさー。
カオル　いや、ほんとでかい。桃、でかい。桃。かわいい。
真夏原　何興奮してんの。うわ！　でか、桃、でか。かわい……くないよ全然！
カオル　でかいっしょ。うわ。どんぶらこっこ、つってる。
真夏原　うわー。なんだろうあれ？
カオル　（決心して）よし、あたし拾ってくる。
真夏原　待って待って待って。
カオル　何？
真夏原　いや、なんていうかさー……。
カオル　何、早くしないと流れてっちゃうよ？
真夏原　ヤバくないあれ？
カオル　何が？
真夏原　だってでかすぎじゃん。なんか毛穴汚いし。

カオル　それが何？
真夏原　や、多分ね……。あれ呪いの桃だよ。うん。呪いかかってる……くさい。
カオル　大丈夫だよ。
真夏原　いや、やめとこう、やめとこう。
カオル　あ、あー、もういっちゃった。
真夏原　いいっていいって。

下流の人々になる。

じじ　なんだべな？
ばば　どうすた。おじいさん。
じじ　いんや、なんか桃さ流れてきたっぺな。
ばば　どうすべな？
じじ　よぐわかんねーけど、いじおう拾っとくか。
ばば　んだんだ。もらえるもんはもらっとくべ。
じじ　はい、拾いました。
ばば　割りました。
赤ん坊　ほんぎゃほんぎゃほんぎゃ。
じじ　わ――――っ！
ばば　ほわ――――！
じじ　ほわ――――！
ばば　だー！
じじ　だーだー。
ばば　なんじゃ、これ。わらしこ出てきたど。
じじ　あれじゃな。きっとこら、お天道さんの恵みもんだべな。
ばば　そうがもすんねーな。うんにゃ、きっとそうにちげえねえ。
じじ　そだてるべ
ばば　そうすべ。そだてるべじいさま。
じじ　ばあさま！
ばば　じいさま！
じじ　ばあさ／

再び、上流に。

カオル　うわー。子供だよ。ねえ、ねえ。
真夏原　ええ？
カオル　桃から、子供出てきてるよ。
真夏原　そんな馬鹿なこと……ホントだ。

カオル　いいなー。すーーげえ盛り上がってるよ。
真夏原　騒いでるね。
カオル　ね、今からでも言いに行こうよ。それはうちらの子ですって。うちらのマサユキですって。
真夏原　誰マサユキって？　いや、うちらのじゃないし。
カオル　だって、先に見つけたのうちらじゃん。
真夏原　そうだけど
カオル　欲しいのよ。
真夏原　諦めて。
カオル　はあ――――――。なーんで拾わなかったかねー。あんなに拾おうって言ったのにさ。ほら、好奇心持たないと。冒険っていうの？　チャンスはそんなにないんだよ。一生の中で何度も「どんぶらこっこ、どんぶらこっこ」っつーのはないよ？
真夏原　桃から出てきた子供なんか育てたくないわよ。
カオル　すーげ―育つかもしんないじゃん。日本一かもしんないじゃんかー。
真夏原　あんたが拾えばよかったじゃん、そんなに「どんぶらこっこ」っつってたんだからさ。
カオル　止めたんでしょうよあんたが。「どんぶらこっこ」っってんのに。あたしとしてはもう拾わざるを得ない状況まで行ってたのにさ、「どんぶらこっこどんぶらこっこ」っってんだから。
真夏原　あんた「どんぶらこっこ」言いたいだけでしょ。
カオル　ちょっとね。
真夏原　（急に大声で）そういう時代もさ！

場面転換。

3　ランドリー

ランドリー　バラバラ・ヨロロ

このシーンはランドリーに戻る前。乾燥機の中。
着替え。

真夏原　……あったんだってよ。
カオル　え？
真夏原　だからァ、そういうじいさんばあさん時代もあったっていってんのよ。大丈夫ニシン？
カオル　あれ、ハラッパ？
真夏原　何よ。
カオル　なんかあっちこっち行くからだんだんわかんなくなってきた。
真夏原　ずっとここにいるじゃない。
カオル　ここって？
真夏原　乾燥機の向こう側。入ったでしょ？
カオル　うん。あ、あたしのこと思い出したのはあれ？　消火器効果で？
真夏原　え？
カオル　さっき忘れてたでしょうが！
真夏原　思い出したのはあんたでしょう。
カオル　あたし？　何を？
真夏原　ちっちゃい頃とか、じじばば時代とか。あたしのこととか。
カオル　そっか。そうだ。思い出した。
真夏原　大丈夫かぁ？
カオル　忘れたことさえ忘れてた。
真夏原　思い出し祝いに寿司でも食いに行こうゼ。
カオル　いや、それとあと、これはそうだ。思い出した。
真夏原　何？
カオル　あんたといたのって、すごく短い時間じゃなかったっけ。
真夏原　そうだね。公園で知り合ってから引っ越していくまでジャスト四ヶ月しかなかったもんね。
カオル　ほんとに？
真夏原　ジャストだよ。うん、そんぐらい。つっても八歳だったし、なかなか覚えていられないか。
カオル　もっとずっと一緒にいたような気がしてた。ほら、あたしその後の十年間でできた友達はハラッパだけだったから。
真夏原　うーん、暗い。
カオル　いろんな遊びしたけど、あんたと遊んだのか、一人で遊んだのか思い出せないや。
真夏原　どんな遊びさ？
カオル　ええ？　んー……「コンビで妊婦」とか。

真夏原　コンビで妊婦？　ってどんなの？
カオル　だから……

２人、突然妊婦になる。臨月なみのでかい腹を抱えている。

真夏原　あーら、奥さん何ヶ月？
カオル　もう六ヶ月ですのよぉ。
真夏原　じゃ、もう安定期じゃなーい。
カオル　そうなんだけどさ、オウ。オウオウ。
真夏原　何、どうしたの？　蹴った？
カオル　蹴った蹴った。奥さんは、オウ、何ヶ月よ？
真夏原　あたしはまだぁ……。
カオル　オウオウ、
真夏原　四ヶ月ちょっとってとこかしら。
カオル　オウオウオウ、
真夏原　うるさいわね。ちょっと大丈夫なのあんた？
カオル　活発な胎児で。
真夏原　ぶん殴って静かにさせましょうよ。
カオル　なんちゅうこというのよ。

カン。と、ボクシングのゴングがなる。
２人、胎児ばかりを狙った悪質なボクシング。
やっている最中にも胎児が暴れる。
２人、やがてお互いを殴らなくなるが苦しみ続ける。胎児が暴れているのだ。
真夏原、戻って、

カオル　あとさ、あとさ、二人でパン屋さんとか開かなかった？
真夏原　「みんなが楽しいパン屋さん」！
カオル　なんか菓子パンの中におもちゃ入れたりしてさー。
真夏原　いらねーっつうの。噛んじまうだろっての。
カオル　ね。
真夏原　あとほら、二人で一人の男取り合ってたりとかしたねー。
カオル　えー、うそーん？　そんなことあった？
真夏原　また忘れてる。幼馴染の田宮マヒロ君。そ、あんたマヒロ君と寝たでしょ？
カオル　寝た。寝たけどあれは……。
真夏原　寝たんだ……。けど、とかいわないで、不潔。不潔よこの便秘。おてんば！　便秘！　ガールズ！
カオル　あ、グループなんだ。

真夏原　そうよグループよあたしたち。
カオル　お前も便秘かーい！
真夏原　だって、あたしらずーっと一緒にいたわけだし。
カオル　想像の中ででしょ。本当は四ヶ月だけ。
真夏原　本当にそう思ってんの？
カオル　え、何が？
真夏原　四カ月だけってさ。そんなちっぽけなコンビだと思ってんのあんた？
カオル　ん？　だって、本当のことじゃん。
真夏原　違う違う違う。本当のこと教えてあげるよ。本当はね、おてんば便秘ガールズは結成したの四〇〇〇年前ね。
カオル　四〇〇〇年？

SE。

真夏原　そうそうそう、そうなのよ。生まれ変わってはまた出会い、二人は四〇〇〇年もの間、それぞれの人生で短い逢瀬（おうせ）を楽しんだのでした。
カオル　なにそれ？
真夏原　あんたはそれを忘れてる。
カオル　ことさえ忘れてる。
真夏原　だからちゃんと四〇〇〇年分の思い出を取り返さねえと。
カオル　どうやって？　四分前までそのこと忘れちゃってたのに？
真夏原　でもニシン思い出したでしょ？
カオル　思い出した。
真夏原　ならもう一度、取り返すことができる。
カオル　ね、ハラッパさん。
真夏原　なんでしょう。ニシンさん。
カオル　私、またこのことを忘れるかな？
真夏原　え？
カオル　せっかく八歳のころからの付き合いだったのに、さっきまであたし、ハラッパなんていう友達がいたことさえ忘れていたわけじゃない？　だからまた、そのことを忘れちゃって、ハラッパなんていう人はあたしの中でいなかったのとおんなじことになっちゃうのかな？
真夏原　なるよ。なる。なる。ていうか、まだまだ思い出してないことのほうが多いでしょ？
カオル　あ、そう？
真夏原　四〇〇〇年分の思い出よ。
カオル　んー、ひとつ聞いていい？
真夏原　なんなりと！
カオル　あたしお母さんに聞いたんだけどさ……ハラッパはずっと前に死んじゃったぞって。

音楽が止まる。急ブレーキの音、再び。

ランドリー　死んじゃってる・交代

真夏原　最初に言ったじゃん。あたし、死んでるからって。
カオル　高校の頃だったかな？　もうなんか、あんたのこと大分忘れてたから、死んだって聞かされても「へー」っていう感じで全然実感湧かなかったんだけどさ、お母さんが、「アンタがあんまりショック受けたらいけないと思って」って、そんなこといってて、
真夏原　地元の小学校を工事しに来てた十トントラックにはねられて夏休みが終わる三日前にパキンてあばら骨折って、それが肺に突き刺さって真っ黒い血吐いて死んだんだ。

間。

真夏原　信じてないっしょ？　あたしがハラッパだってこと？
カオル　ていうわけじゃないけど……死んだんでしょ、だって……？
真夏原　かー、失礼しちゃう。カー。キー。カー。カー。
カオル　★わかったよ。「カー」ね。ああそう。

真夏原、どこかに座りなおし。

真夏原　これ聞いたらちょっとは信用してくれるかな……。わざわざ死んだ人間がこんなところまで何しに来たかってさ。訪問理由。
カオル　何かあるの？
真夏原　交代に参りました。

音in。

真夏原　目が醒めて、洗濯物が終わったらその時からあたし、あんたと交代してニシンになっから。
カオル　交代って、は？　別に今、寝てないし。
真夏原　寝てるんだよ。乾燥機の外の世界ではそうなってんの。
カオル　何よそれ。そんで何、私がハラッパになるの？
真夏原　なんないよ。だってほらハラッパは死んでるし。
カオル　じゃ、あたしは？
真夏原　ニシンは川に帰るのよ。
カオル　はは。あ、そうなんだ。
真夏原　うん、そう。
カオル　桃の中にでも入って揺られるか？

真夏原　どんぶらこっこー、どんぶらこっこー。
カオル　それいいたいだけでしょ
真夏原　あー、まだ信じてないんでしょ？
カオル　ええ。
真夏原　いや、本気でね。乾燥機から出てランドリーに帰るのは一人だから。あの丸い出入り口は乾燥と潤いが一つになった世界の出入り口。ほら、人間生まれてくるときはずぶぬれで登場するわけじゃない？　そして死んでく時にはパサパサに乾燥して去っていくわけよ。
カオル　で、あたしが去ってくわけ？
真夏原　あんたが乾いて私が潤う順番が来たの。
カオル　そんなの誰が決めたの？
真夏原　誰が決めなくたって雨は降るし、そんでまた乾くでしょ。
カオル　で、何？　ハイ、そうですか、っってあたしがそれを信じるわけ？
真夏原　信じなくっても帰るのはあたしだけだから。

カオル　え、ヤダよ。帰してよ。
真夏原　それちょっと無理なんっすよねー（米屋のお兄さん風）
カオル　なんで？
真夏原　だから順番だからって。人の話聞いてた？
カオル　聞いてるけど、え？　帰してよ。
真夏原　それちょっと無理なんっすよー（再び）
カオル　誰よそれ。だってあんたは帰るんでしょ？　あたしは？
真夏原　ん？　居残り？
カオル　嫌だよそんなの。まだ死にたくない。
真夏原　死ぬとかいわないでよ。あくまでも交代なんだから。
カオル　え、やーだ。ん、交代ってどういう意味、だいたい？
真夏原　そのまんまだよ。あたしが高橋カオルとして生きてくの。さっきみたいに。
カオル　さっき？　あー、さっきか。
真夏原　そうそう。
カオル　えー。釈然としねー。
真夏原　ま、あんまりいいこともなかったしねぇ。……セ・ラ・ヴィ。それも含めて人生さい。
カオル　そんなの、ずるいよ。あたしが今まで高橋カオルとしていろいろやってきたことを全部あんたがのっとるわけ？　だってそういうことでしょ、あんたが言ってるのは？
真夏原　人聞き悪いこと言わないでよ。私が2代目ってわけじゃないからね。あんたがずっとやってきてると思ってる高橋カオルだって何回も何回も代変わりして、ようやく今にいたるわけだから。
カオル　してないよ。交代なんて。
真夏原　忘れたことさえ忘れてるから。
カオル　そうなの？

真夏原　どうもね、そういう感じになってるくさいよ。だからなんかこれからはこうして欲しい、とかさ、自分にメッセージみたいなのある？　あったら聞くよ。

ランドリー　おわかれ

カオル　ははは。
真夏原　ははは。
カオル　それで何？　あたしがなんかあんたに言わなきゃいけないんだ？
真夏原　うん。何でもいいよ。それ聞きに来たようなもんだからさ、どーんと来て。
カオル　言わないし。言うことないしあんたなんかに。
真夏原　あ、でもあらかじめ言っとくとね、あの、聞くには聞きますけど、全部忘れちゃうんだって。
カオル　意味ないじゃん。
真夏原　ま、ま、そうなんですけどね。仕方ないの。交代したら私も忘れちゃうんだわ。その交代したってことを。つるーっと。ついさっきまでのあんたみたく。
カオル　あたしみたくとか言わないでよ。あたしは、あらゆる意味であんたみたいなんかじゃないから。全然、全くの別人。何の関係もないから。
真夏原　怒んないんでよ。そんなことない。あたしもなんでも覚えてるってわけじゃないんだけど、なんにも覚えてないってわけじゃないからさ、
カオル　何を覚えてるっていうの？
真夏原　あんたはなんか覚えてないの？
カオル　何にも。
真夏原　酷い。酷すぎる。あるよあたしは。あるに決まってんじゃん。なんか悪くない感じの、いろいろいっぱい。あるよ。――なんか不公平。
カオル　不公平？
真夏原　いつでもそうじゃん。アンタがそんなんでもあたしはアンタに会いに来るんだよ。
カオル　乗っ取る為に？　あたしのことを。
真夏原　そうだよそう。いつだって、あたしがあんたを乗っ取るの。それであんたはどっかいっちゃう。気楽なもんだよねー。
カオル　そんなこというんだったらあたし帰してよ。交代とか冗談じゃないんだから、
真夏原　だーから、それは無理なんっすよー。
カオル　じゃ、みんなは？　あたしを知ってたみんなは、あたしと交代したあとのあんたのことをその、「誰だおまえはーっ！」とか言わないの。
真夏原　言わないよ。
カオル　絶対？　シークレットの一人も絶対？
真夏原　らしいよ。って、だってもうあいつとは別れたじゃん。
カオル　いやいやいや、だけどさ。――ってなんでもお見通しなんだ。
真夏原　そりゃ、予習しとかねえと。

間。

真夏原　高校野球でさ、

カオル　はい？　高校野球？

真夏原　高校野球っつっても、あの甲子園とかじゃなくて、もっとしょっぼい、地方の大会とかでね、テレビ神奈川でやってたんだけど、あ・わかんないか。ま、ローカルの？　で、なんかあたし、覚えてんだけどさ、そこのエースがさ、ピッチャー？　もう完全に負け試合になっちゃってる時に、すんごいふて腐れた顔して投げてんのよ。もう、勘弁してくれよ、みたいな。

カオル　うん……。

真夏原　したら、それを見かねたのかなんなのかわかんないけど、ベンチから監督っぽい奴が出てきてさ――ていうか監督だと思うんだけど――そいつに交代を告げたわけよ。そん時の、そいつの顔がもうすっごいバカで。もう、さっきまでふて腐れてたんじゃなかったのかよ、ってぐらいなんか、ムキになるっつーか、「俺まだやれます！」みたいな？　「監督、俺に投げさせてください」みたいな？　いや、何言ってるか全然わかんないから、テレビだしさ、あたしの勝手な想像なんだけど、なんかそんな感じのこと言ってて、

カオル　うん。

真夏原　で、それでも普通に交代になって。仕様がないから。なんか、名残惜しそうな顔してマウンド降りていってさ。でね、驚くことにそいつにとってそれが生涯最後のマウンドになっちゃったわけなのよ。

カオル　どういうこと？

真夏原　って、知らないんだけどね。投げたかもしれないんだけど、その後ね。でもなんかあたしの直感的に？　あ、こいつはもうこの「マウンド」っつうとこには帰ってこれないな、っていう感じがして。いや、投げたかもしれないんだけど、次の日とかに。だけどなんか……多分投げてないんだな。もう、全然、それっきりになっちゃったんだよね、そこで。つまんねー試合のつまんねー敗戦処理で、エースのくせにさ、それで終りなっちゃうの。

カオル　それ何？　あたしに対しての遠まわしな……。

真夏原　ていうんじゃなくて、絶対そういうと思ったけど、そういうんじゃなくて、それはなんだ、むしろ、あたしがここに来た理由ていうか、答えっていうか……。うん。わかんないと思うけどね、

カオル　わかんないでしょそりゃ……。

真夏原　と思うけど、その、監督もね。あの、その監督は別に、それが最後のマウンドになるとかわかってなかったと思うんだけど、ま、例えば、それがわかってたとしても、その最後ってわかってても、それを言わなきゃいけない場面みたいなのがあったとして、さ。なんか、わかんないけど。多分その、「俺やれます」みたいな？　そういうのを、聞かざるを得ないっていうか、聞いてあげなくちゃいけないっていうか――あけなくちゃってなんか優越感みたくなっちゃうけど――むしろ義務というか、そういう感じで、聞いてあげなきゃってことになると思うんだよね。それ、を。

カオル　うん。だけど、あたし、言うことないけどね。

真夏原　……信じないから？

カオル　信じないよ。そりゃ信じないけど……。でも、もし、あんたの言う通り本当に交替になってさ、そんで、つるーっとお互いのこと忘れちゃうんだとしたらなんか……うん＝
真夏原　＝なに？
カオル　勿体無いねなんか。イヤだ。せっかくこうやってハラッパとまた会って、思い出さなくてもいいようなこと、わざわざ思い出したのにさ。忘れちゃうんでしょ？　なんか、さみしい感じすんね。
真夏原　さみしくなんかないよ。ちっとも。
カオル　そう？
真夏原　だって、さみしくなりようがないもの。全然。さみしがる理由もないし、引っ掛かりがないもの。何も。だって普通にそういうもんだし、あ、唾飛んだ。
カオル　汚ね。……ね、あと、どんぐらい時間あるの？
真夏原　あとちょっと。洗濯機が止まるまで。
カオル　ほーん。

間。

カオル　何を言おうかね。
真夏原　え？
カオル　メッセージをさ。どうせ私が言ったことをすぐに忘れちゃうような人に私の最後の言葉をあずけなくちゃいけいないわけでしょ？
真夏原　……。
カオル　どうぞ私のことは頼みます。とか？　ヘンなの。
真夏原　……。
カオル　ね。なんでわざわざ聞きに来たの？　哀れみ？
真夏原　あ、あたしがか？　んー……。
カオル　興味本位？　とか。
真夏原　んーなんでだろう。わかんないけど、なんかあたしがあんただったらなんか言うことがあるような気がして。
カオル　ないよ別に。全然ない。全然ない。も・ぜんっぜん無いっ！
真夏原　わかったよ。
カオル　ワー、でもそれっておかしくない？　結局一緒なのにみんなもあんたも。だって、がー、ちょっと聞いてよ！
真夏原　え？
カオル　だってさ、うわ、すごいこと気づいた。みんな・だって、いつかは忘れちゃうわけじゃない？　いつかはパサパサになって死んでいくわけだから、みんな。だからさ、どのぐらいの長さあたしの言ったこと覚えててもらえるかなんて、ゆーて程度問題っていうか？　どっちみち一緒なんだよ。ね？
真夏原　……。
カオル　だからなんていうか、今、この瞬間のあんたに対して言うことがない、っていうことは、だよ。いつ、どの瞬間の誰に対しても言うことがない、って言うのと同じことだよね？

真夏原　思い出してくれたんだ。
カオル　え？　何を？
真夏原　あんたがあたしにそう言ってくれた時のこと。あたしが、「つまんねーおしゃべりはもうやめるんだ」とかっていってさ、自分うるさくてしょうがなかったから半日ぐらい黙り込んでた時にさ、あんた、今と同じこと言って。
カオル　「今、この瞬間のあんたに対して言うことがないっていうことは、いつ、どの瞬間の誰に対しても言うことがないって言うことと同じことだ」って？
真夏原　そのまんま。だから、「どんなにつまんねーおしゃべりでもあたしに喋り続けてよ」って。あんたそう言ったじゃん。
カオル　夏休みに入る直前の？
真夏原　一学期の終りにさ。
カオル　２人で成績表見せ合って、
真夏原　半日で学校から帰れるはずの日に、あたり真暗になるまであんたとずっと一緒にいてさ。ずーっとお喋りしてて。だってあたし言えなくて。なんていっていいかわかんなくて、ぜんぜん。
カオル　引越してくって言えなくて？
真夏原　だからつまんねーことだけ話して。なんていっていいかわかんなかったんだけどあたし、一つの言葉を見つけてさ、あぁ、そうか、この言葉はこういう時に使うのか、ってあれは本当に発見ていうか、ね。……「さよなら！」って。それまであたし、「さよなら」って言葉は知ってたけど、言葉の意味は多分全然わかってなくて、あん時に、そう言って始めて、「さよなら」ってのはこういう意味なんだってわかったみたいな感じで、したらなんか、めそめそしてきちゃって。こんにゃろー、と思って。だって、絶対、なんか泣くのとか超カッコ悪いと思ってたから、こんにゃろー、って、もうギューて拳固めちゃって。そしたらあんた、
カオル（少女）　「じゃあまたねえ」
真夏原（少女）　……。
カオル（少女）　「またねえ」だよ。「さよなら」じゃなくって、「またねえ」っていってよ、ハラッパ！
真夏原　あたしほら、根が素直だからさ、「じゃあまたね」っていったら嘘つきみたくなりそうだったし、あたしあんたに嘘つきたくなかったからさ、それでも「さよーならーっ！」つって。「さよーならーっ！」
カオル（少女）　じゃあわかった。わっかりましたよ。あたしも「さようなら！」って一回言ってあげるから、ハラッパもそしたら絶対「じゃあまたね」っていってよね？
真夏原　あたししょうがないから、言ってあげたんだ。「さようなら、じゃあまたね！　じゃあまた来るね！　ニシン！　じゃあまたねーっ！」つって。……あれ多分、２人が会った最後の日。

間。

カオル　洗濯物。
真夏原　？
カオル　ちゃんと忘れないで持って帰ってよね。
真夏原　うん。大丈夫。
カオル　せっかくあたしがさ、いろいろお店回ってかわいい服安く買って集めたんだから、ちゃんと持って帰ってよね。そんでちゃんとおしゃれして。ちゃんとかわいくしててよね。
真夏原　うん。
カオル　……ちょっときわどい下着とかも入ってると思うけど、あれはほれ、自分で楽しんだっつうよりか、なに？　サービス的な側面もあっから、そこんとこはまあ、
真夏原　わかったわかった。皆まで言うな……。

間。

カオル　この身体は最後まであたしのもの？
真夏原　ん？　そうかな。
カオル　よかった。じゃ、このハダカ一つだけはあたしのもんなんだよね？
真夏原　爪の先から髪の毛一本に至るまで。
カオル　無駄なハダカだ。あたしのための。
真夏原　なにそれ。誰かのためのハダカだったの？
カオル　そりゃあたしにだって、そんな話の一つもありまさあな。……だけど、もう、誰のためでもない。
真夏原　あんただけのハダカ。
カオル　無駄だ……。もうちょっと一緒にいたかったね。
真夏原　ん？
カオル　なんかごめん。あたしもわかんないけど、一人でいるよりは多分、マシだよね。この時間。
真夏原　マシ、って……。
カオル　だって悔しいじゃん。『高橋カオル』を取られてしまうわけだから、あんたに。だからあんまりあんたといても嬉しくないとも思うけど、だけどさ、
真夏原　うん。いてあげるよ。一緒に。
カオル　うん。
真夏原　……ありがとう。
カオル　はは。忘れないでね、って言葉が意味を持たないお別れだね。
真夏原　そんな感じ。
カオル　ねえ、あと、どんくらいあんの？▼

真夏原　あんまないかな……。もう最後の脱水に入ってる。ホラ、聞えるでしょ？　ゴトゴト回ってる音。
カオル　それはあんたの音じゃない？　ずぶぬれになって出て来るほう。あたしの音はカラカラいってるよ。乾燥機だからして。

ＳＥ。カラカラ回る音。

カオル　……自転車のさ、車輪が回る音みたい。引っくり返った車輪がカラカラ回っている時の音。

カオル、イヤフォンを真夏原と片方ずつつける。

真夏原　残りもうちょっと何しよっか？　ね。
カオル　もう少し、シャベル――

音楽。２人、すごく近くですこし話す。
ふたりが喋っている情景。それが終わり、

カオル　起きたらまず選択をしてよ。
真夏原　センタク？
カオル　ザブザブ水使うほうじゃない、何かを選ぶほう。どんな自分になるか。あたしのことを思い出すか、それとも忘れるか、選択をしてよ。
真夏原　生きていくんだから何かは選ぶと思うけど……。
カオル　いんやー。いんにゃー。なんかあたしは、なんも選べなかったから。なんも、好きなことを。好きな人も。
真夏原　いろいろやってたんじゃないの。ほら、バンドとか……。
カオル　★そうバンドとかね！　あんなのなんとなくだから。全然ダメ。ちっとも好きじゃなかったんだ。
真夏原　音楽が？
カオル　音楽も。メンバーも。全然好きじゃなかったんだ。だからやめたんだもん。違うか。好きだったけどやめたのかな。わかんない。だけど気づくのが遅かった。だから、あんたはちゃんと選択をしてよ。
真夏原　覚えてたら。
カオル　あー、ムカつく！　じゃあ、あたしが考えた教訓を教えてあげるよ。忘れちゃうだろうけど。ナーっ！　それは悔しすぎる。なんか、なんかに刻み込んでよ。ＤＮＡとかにさ。っお！　うおー、賢い。あたしやっぱ、これはセンスある。
真夏原　どうしたの？
カオル　書いとくわ。メモ残したげるよ。あたし。紙ないの、紙？
真夏原　ないよそんなの。

カオル　もうなんでもいいや、うーん、あ、アイスのフタ。フタでいいや。
2人　桃アイス！
カオル　じゃ書くもの書くもの……は、これでいいや。

カオル、口紅をペンの代わりに使う。

カオル　せめてハーゲンダッツでも買っておけばよかった。
真夏原　言うと虚しくなるからやめたほうがいいよ。
カオル　っせーな。

何かを書き付けるカオル。

カオル　眠る前と、起きた後とでは、違う人間になってしまうから。だから……。
真夏原　ん？
二人　起きてからやろうと思うことは寝る前にやってしまいなさい！

間。

大いに笑う。ふと、真夏原は笑うのをやめる。
イヤフォンを外して少し離れる。

真夏原　ごめんなさいあの……、
カオル　ん？
真夏原　どちら様？
カオル　……。
真夏原　ってあれ？　すみませんなんか、あたし寝てました？　つーか叫びました？
カオル　……。
真夏原　すみません、なんか。
カオル　いーのいーの。ハラッパさん？
真夏原　は？　……ラッパ？
カオル　高橋カオルさん？　じゃなかったらなんかもっと別の人の名前？
真夏原　はい。な、なんでしょう？　え？
カオル　○○さん（真夏原を演じている俳優の名前）、いつかあなたの暮らしはお芝居になって、どっかの誰かが汚い狭い小さい劇場でそれを上演するかもしれなくてさ、
真夏原　え、え？
カオル　いつかあなたはあなたの役を降ろされる。きっとあんたはショックを受けて、「なんであたしが！」っていってさ。「この役はあたしのだよ！」っていうと思うんだわ。だけどさ、そう。そういうものなんだ。……準備はよくって？
真夏原　は？

カオル　「よくってよ」っていいなよ。「よくってよ」って言うの。いい？　……準備はよくって？

真夏原　「よくってよ」……？

カオル　だったらね、今のうちによーく、お化粧しときなよ。

真夏原　お化粧？

カオル　それがあなたの、手紙になるんだから。

音楽。暗転？

ＳＥ、車の急ブレーキの音。転倒音。

スポークのカラカラ回る音。

やがてそれがピタリと止む。

真夏原が倒れた自転車を起こし、

真夏原　……ええ、大丈夫です。怪我とか、大丈夫です。え？　……いや、病院つうか、あたし、センタクしないといけないんで。

4　普通の朝

普通の朝　喋るという名の自転車に乗って

真夏腹、舞台の中央に一人立って。

真夏原　普通の朝だった！　……はずの真夏の日本の朝まだき。見事な作戦によってそれは、記念すべき朝へと姿を変えた。徹夜明けの私が元気なのはおなかが空いている間だけ。何かを口に入れればたちどころに睡魔に襲われる。だから私は作戦を立てた。バイト明けのアイスはコインランドリーで食べればいい。そうして私は、木で出来たショッキング・ピンクの表札の掛かっているワンルームマンションの自室を、ここ一週間ばかり不法占拠していた洗濯物どもを片付けることについに、ついに、つ、い、に、成功した！　その量といったらTシャツやらキャミソールやら、ブラジャーやらジーンズやら靴下やらタオルやらパンツにニーソックス、プリーツスカートに、縦に3本のラインの入ったベージュのジャージーやら……んーともかく！　すべてのくたびれたお洋服は再びまっさらになって私の前に姿を現した。……今日の私はいつもの私とは一味違っていた。寝る前と起きてからとで違う人間になってしまうこともなく、一つの仕事をやり終えたのだ！　その爽快感を胸に、私はさっそうとこいつ、シャベル――――――っという名の自転車にまたがって、自らの部屋へと凱旋する。

洗濯物をまとめる。

真夏原、置いてあるメモに気づく。

それを手に取ると音楽。

メモを持って、家に、帰る。

終劇